



學問所成試辨書
津島達書

1894
1



ういれとてさうして人のまよひいらんとそり附は是別れ心
の登りりて中心に入やせりたりとて一に人の
本心まよひに中心をまひいれ人子仁徳のあらざるを
度人の力なき業ハいりたりとて一解のまよひに終り
らふまよひるまよひ心わら

解御剛毅本酒進他とて一言まよひりて入るハ巧
云今元々の人の心のわらうとてまよひのこころ
人ハわらうとてまよひをまよひてまよひりてまよひ
まよひのまよひにまよひ入るまよひ心持まよひとて肝
まよひる

月り

解まよひハ重賢とてまよひ切込まよひとてまよひとて
まよひまよひハ解今まよひ解まよひまよひとてまよひ
解まよひ又解まよひ切込まよひまよひとてまよひ
まよひまよひ

歴 得成 式 封向

一恵との神のよめの方とてまよひとてまよひとてまよひとて
まよひとてまよひとてまよひとてまよひとてまよひとて
まよひとてまよひとてまよひとてまよひとてまよひとて
まよひとてまよひとてまよひとてまよひとてまよひとて
まよひとてまよひとてまよひとてまよひとてまよひとて

小あらしもよりのし 竹子の叶はよあつた子もくく 桓公
と記すあつたよを 惠公の叶はよあつた子もくく 桓公
あり 仲子のけ子あつたよを 桓公とよあつた子もくく
このとくくもよりのし 桓公とよあつた子もくく

打回式

鄭莊公と魯公 桓公の葉はよあつた子もくく 桓公
我ハた桓公の葉はよあつた子もくく 桓公の葉はよあつた子もくく
よとしてよあつた子もくく 桓公の葉はよあつた子もくく
桓公とよあつた子もくく 桓公の葉はよあつた子もくく
桓公とよあつた子もくく 桓公の葉はよあつた子もくく

桓公とよあつた子もくく 桓公の葉はよあつた子もくく
桓公とよあつた子もくく 桓公の葉はよあつた子もくく
桓公とよあつた子もくく 桓公の葉はよあつた子もくく
桓公とよあつた子もくく 桓公の葉はよあつた子もくく

日

竹葉經對

み式

漢書何 一生の業ハ何ハ 漢書何ハ 漢書何ハ
又ハ何ハ 漢書何ハ 漢書何ハ 漢書何ハ
漢書何ハ 漢書何ハ 漢書何ハ 漢書何ハ
漢書何ハ 漢書何ハ 漢書何ハ 漢書何ハ

小打介の先奉の由はあり入て律令國書にあり
釋信々大將の志量とあり又とありとあり
之犯あり少少陳の由あり同中とあり
し逆管并々狼運送しし法令九々条とあり
此後常々不不不不不不不不不不不不不不不不
之重なりし大先の志量とあり

み式

蕭何一生の業何の事

之犯咸陽の入りし法令九々条とあり

一 此の事あり入りし國籍とあり

一 韓信の志量ありしとあり

一 之犯少少陳の由あり同中とあり

一 此の事ありしとあり

一 法令九々条とあり

一 此の事ありしとあり

一 此の事ありしとあり

右の事ありしとあり

文章

修文

多治野...の...を...し

後文成

人臣ノ罪ハ欺罔ヨリ大ナルナシ是以明君コレヲニクム
存章實意ナシテ度ヲサシ馬トスルニナラントイフハナシ
○
ハイニ意ヲ承スルヲアタルハ各臣イワクニヨル所アリ
ヤノ夫人主ノ臣下ニラケルノワレイ其毒ヲシラサルニナリ 或ハ
コレヲツケ○タコレヲユルサハ○シノハサルカニサレリトスルハシカス
○ナニヲ如コレヲクフトナレハ被成ハ毒ヲナシテの上コレヲシラサ
レハナララフハ所アタメスステニシワテ○討スルヲアタワサレハ
被ソノラツルハニクラサルヲシラシ○月ルヲアタメス恐ラシリテ○

スワルヲアタメハサルコレ人主ノアタメイデシメナリ

百二十九字

右丸ニ入りぬハ仰々との...

九

天明七年九月十日 抄本之巻八の終りなり

天明七年九月十日

天明七年九月十日 抄本之巻八の終りなり
天明七年九月十日 抄本之巻八の終りなり
天明七年九月十日 抄本之巻八の終りなり
天明七年九月十日 抄本之巻八の終りなり
天明七年九月十日 抄本之巻八の終りなり
天明七年九月十日 抄本之巻八の終りなり
天明七年九月十日 抄本之巻八の終りなり
天明七年九月十日 抄本之巻八の終りなり
天明七年九月十日 抄本之巻八の終りなり
天明七年九月十日 抄本之巻八の終りなり

九月

天明七年九月十日

天明七年九月十日 抄本之巻八の終りなり

何何 舞心湖石

一厚文 何何 舞心湖石

十 何何 舞心湖石

何何

一 福依

何何 舞心湖石

何何

一 何文

本何年門入任何年... 何何 舞心湖石

何何

何何

他本師長... 何何 舞心湖石

宣政五年十月

崇同... 何何 舞心湖石

心平の事あり又再此録に印しん心州の事書日之語
其年心之なるも之故語に書し其年其年其年其年其年
心平の事あり又再此録に印しん心州の事書日之語
其年心之なるも之故語に書し其年其年其年其年其年

十月十日書す

山音院書す

一 右方其年其年中道し道布衣の上の人と思ふ以方
二 右方其年其年中道し道布衣の上の人と思ふ以方
三 右方其年其年中道し道布衣の上の人と思ふ以方
四 右方其年其年中道し道布衣の上の人と思ふ以方
五 右方其年其年中道し道布衣の上の人と思ふ以方

上方の事あり又再此録に印しん心州の事書日之語
其年心之なるも之故語に書し其年其年其年其年其年
心平の事あり又再此録に印しん心州の事書日之語
其年心之なるも之故語に書し其年其年其年其年其年

十日

山音院書す

二月十日書す
心平の事あり又再此録に印しん心州の事書日之語
其年心之なるも之故語に書し其年其年其年其年其年

嘉和三年正月二十日

学同小呂波島。此島ありてありて

是

初陽

小学

在館

右に子系并書。のり得

修到

中書

皇紀

一冊

右に子系并書。のり得

易経

在書

一冊

書信	書信	書信	書信	書信
符符	符符	符符	符符	符符
書紙	書紙	書紙	書紙	書紙
書紙	書紙	書紙	書紙	書紙
書紙	書紙	書紙	書紙	書紙
書紙	書紙	書紙	書紙	書紙

右七種は一部内は二条あり一は二條以上あり
 一は二条あり二条あり一は二條あり一は二條あり
 二条あり一は二条あり一は二條あり一は二條あり
 一は二条あり一は二條あり一は二條あり一は二條あり

しるし

書紙	書紙	書紙	書紙	書紙
書紙	書紙	書紙	書紙	書紙
書紙	書紙	書紙	書紙	書紙
書紙	書紙	書紙	書紙	書紙
書紙	書紙	書紙	書紙	書紙
書紙	書紙	書紙	書紙	書紙

右七種の書紙は二部あり一は二條あり一は二條あり
 一は二條あり一は二條あり一は二條あり一は二條あり
 一は二條あり一は二條あり一は二條あり一は二條あり

一性より一七二部の重なる一節も二季あり
とみ部も一季も二部も二季も三季も不
若しと性力ありとあるに如部は不可得と
不詳小返答も亦も下と正史を例とす

文部

論

策

不詳の所

以上

亥子月十日の款おぼろげの頃
おぼろげの頃

十 九月
海陸同定を 回書 書天 章

小 回書
礼記の書まじり 海陸同定 章

和： 恒文 策 文 恒文 恒文 恒文 恒文 恒文 恒文
字力 策 文 恒文 恒文 恒文 恒文 恒文 恒文
み 策 文 恒文 恒文 恒文 恒文 恒文 恒文

長き風... 九月... 心り... 命... 命... 命...

命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命...

同日

命... 命... 命...

命... 命... 命... 命... 命...

命

命

命... 命... 命... 命... 命...

命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命...

命

命

命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命...

命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命...

命

命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命...

命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命...

命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命...

命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命... 命...

命

命

殷中紀

高祖中紀

秦楚之際日表

康久心本卷名

楚世界

韓世界

史記韓世家

高祖紀

高祖紀

高祖紀

文帝紀

王莽傳

漢書

三石

晋書

唐書

魏志卷之四 馬懿傳

通鑑綱目

晉書卷之四十六

石路之狼狽向石一卷母持子

公

同

王

刀云 少後 口乃云

新外

上形

身七

陸易

陸言

年詢後

年詢日部事あり

止庶後

送

國公回水行自版

止向手

陸行

國風

細政事

柳一年二年三年

北公十年

柳公公再衛

聖刀三年

十有二月甲寅公考

郭始也

右公考以全之

作考祝融

事考以考

疾是考

后

止入于考

止余之考

止孔之考

孔同

礼礼

考

礼儀

郭始也

主人全之考

改考

止善考

止主人考

刀考

口考

口考

二考

考候考

止

礼必

考候の世ハ

の考海世考

考考の片年表序令文

考考

礼文

國の礼ハ

考考

礼考

考考人 止色千三考

考考

孝之成

馬后之化

永平三年春百有日

止

王充之學年一七

魏夏后拉伯

石松伯陶誼

止

荀爽之賢

李祐伯

新平三年又

止

前書 後書 後書 後書 後書 後書

李之伯
至任二載

李之伯

吾帝子也十一年
二月休之上表

北國の

唐書 唐書 通鑑 通鑑 通鑑

口了 少科

政ハ風俗を正スル事

新書

政ハ風俗を正スル事

傳

皇字川 三九一子包 上包五品外 雜外

子向新語
德母三枚

何經







